

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 8 月 20 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K12441

研究課題名(和文) キャリア形成のための外国語教育研究 動画制作を用いたフランス語教育

研究課題名(英文) Research on foreign language education for career development - French language education through video making

研究代表者

深井 陽介 (FUKAI, Yosuke)

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：60623410

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、外国語学習を通じて、社会に出てから必要な能力(主体性、協調性、独創性、読解力)などをどれだけ身につけることができるのかを考察した。具体的には、フランス語による映画製作プロジェクトチームを作り、脚本、撮影、編集から広報に至るまで、学生を中心としたチームが制作した。結果としてフィクションのシリーズものの作品を3本完成させ、スイス・ローザンヌ大学との共同による脚本も作成した。しかし、その後新型コロナウイルス感染拡大に伴い、計画を中断せざるを得なかった。全てを実行できなかったことは残念だが、学生のコミュニケーション力は飛躍的に向上し、大きな成果があったと言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

まず、外国語の学習が、単なる語学の修得やコミュニケーション能力の向上だけに留まらず、協働や主体性を身につけさせる上で非常に有効な手段であることが明らかになった。また、複数の外国語を学習することで、外国語同士の関係や日本語との関係性に気付くきっかけとなり、理解を深めるうえで相乗効果があることが分かった。最後に、スイスなどの外国の大学と共同でプロジェクトを進めることで、学習者が実際に外国人学生と積極的に議論するという貴重な機会を得て、彼らの異文化理解に繋がった。

研究成果の概要(英文)：In this study, we investigated how learning a foreign language can help students acquire abilities (initiative, cooperativeness, originality, reading comprehension) that they will need when they graduate. Specifically, a French-language film production project team of students was formed, and they worked on scriptwriting, filming, editing and promotion. As a result, we completed three fictional series of films and also produced a script in collaboration with the University of Lausanne (Switzerland). However, due to the spread of the new coronavirus, the project had to be suspended. Unfortunately, we could not carry out all the projects, but the communication skills of the students improved drastically and there were some great results.

研究分野：フランス語教育学

キーワード：フランス語 キャリア形成 異文化コミュニケーション 映像教育 反転型授業 プロジェクトベース
ドラミング

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本人学生は、以前から内向的な気質を持っているということが指摘されてきたが、近年では特に主体性、行動力、コミュニケーション能力を持つ人材が求められている。例えば、文部科学省の「スーパーグローバル人材育成推進事業」においては、現代の若者の内向き志向を克服し、積極的に世界で活躍できる人材を育成するという目標が掲げられている。また、日本経済新聞社発行の『価値ある大学・就職力ランキング』(2018年度版)においても、企業が学力そのものよりも行動力(熱意がある、主体性がある、チャレンジ精神がある)や対人力(コミュニケーション能力が高い、ストレス耐性が高い、柔軟性や適応力がある)を高く評価していることが明らかになっている。それにも拘らず、学生の内向き志向は変わらず、中・長期的な海外留学を希望する学生も減少している。このような傾向が続く一因として、申請者は読む、聞くというインプット中心の外国語教育、入試制度が関係しているのではないかと思いついた。そこで、大学の外国語教育を通じて、情報をアウトプット(話す・書く)する訓練を重ね、コミュニケーションの技術を向上させることで、将来社会から求められるような積極性や主体性、コミュニケーション能力を兼ね備えた人材を育成できるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は3つある。第1に、外国語教育を通して単に語学力を養成するだけでなく、社会において高い生産性を発揮する上で重要な能力について研究し、それらも育成する外国語教育システムを研究・開発することである。

第2に、そのシステムを全ての人々が利用可能な形で提示し、わかりやすく説明し、広く社会に発信することである。ここでは、特に広範な発信力と双方向性を併せ持つSNSに注目し、フィクションの短編映画やルポルタージュなどを共同で作るプロジェクトチームを結成し、フランス語を用いて自由な発想で製作・発表していく。ここには、学習者の発想を尊重することで主体性を促し、議論を通して作品をチームで作りに上げることでコミュニケーション力と協調性を育もうという意図がある。出来上がった作品はSNS上で公開し、作成チームは動画作品に対して社会的責任を負うことになるが、これがそれぞれの学習者の外国語能力・協調性・主体性にどのような影響を与えるのか検証する。

最後に、第1、第2の目的の発展型として、海外の大学と共同で動画作品を作成し、発表することである。具体的には、スイス・ローザンヌ大学と申請者が所属する東北大学から希望者を募って、学生から成る短編国際映画共同制作チームを作り、事前会議から脚本、撮影、編集、公開前後の広報に至るまで主体的に作成させることである。このような実践を通じて、外国語教育の研究法が大学生に適したものであるかどうか検証することができるし、国際交流や異文化理解にもつながるのではないかと考えた。

3. 研究の方法

本研究の具体的な手順・方法は次の通りである。まず、フランス語・英語で簡単な日常会話ができる15人程度の学生(日本人学生や留学生)と教員(申請者とネイティブ教員)からなる動画制作プロジェクトチームを結成する。次に、参加者全員で動画の企画案を準備し、どのような内容の動画を作成するかフランス語によるプレゼンテーション・議論・投票を通じて決定する。さらに、選ばれた企画から必要な役割を割り出し、学生一人一人に責任を負わせる。例えば、物

語作品の場合には監督・助監督・演出家・カメラマン・衣装・メイク・大道具・小道具・音楽・プロデューサー・書記などの役割を参加学生に割り当てていく。その際、教員は極力フランス語を用いて計画を説明するようにし、外国語によるコミュニケーション力(話す・聞く)の育成に力を入れる。脚本や台本はネイティブ教員の力も借りて、入念に完成させる。さらに、撮影に必要なカット割りやストーリーボードの作成、スケジュールの管理や予算配分についても考える。

以上の準備段階を経て、台本の読み合わせと撮影作業に入る。最後にリハーサルを経てすべてのシーンのカメラ撮影を行い、パソコンで編集する。その際、動画編集ソフトを用いて、画像を加工する場合がある。完成した作品は、フランス語の映像教材としてYouTubeなどの動画サイトにアップする。また、発表した作品に対して書き込まれるSNS上の感想についても学生と共に検討し返答するようにする。このように、学生のアウトプット力(話すこと・書くこと)を積極的に強化する動画教材と学習システムを構築する。

動画は半年に1回のペースで作成し、3年間の研究期間中に計6作品を発表する。長さは5分程度から20分ほどのもので、高度に芸術的な内容や政治性などを排除し、誰もが理解できる作品になるように配慮する。製作チームが集まり、議論・検討・撮影・編集にあたるのは主に授業時間外とする。また、作品が発表される毎に、プロジェクトに参加している学生を対象に、外国語能力や主体性・協調性・コミュニケーション能力がどのように向上したかアンケート調査し記録するとともに、このような外国語教授法の有効性について検証する。また完成した作品についても、動画の視聴者数、年齢層、国籍、性別、時間帯などから分析し、結果を日本フランス語教育学会や国際フランス語教授連合が主催する国際会議で発表する。尚、最終年度はスイス・ローザンヌ大学との短編映画共同制作チームを結成し、異文化理解をテーマにした作品を制作する。インターネットを通じた会議を何度も繰り返すことでコミュニケーション能力を磨き、最終的にはスイスに赴いて撮影を行い、編集後公開する。

4. 研究成果

研究開始当初、外国語によるフィクションの短編映画を作るプロジェクトを作り、申請者の所属する東北大学で参加希望者を募ったところ、約20名の学生が参加してくれることになった。2018年5月に最初の会議を開き、内容は探偵・推理ものに決まり、タイトルは『わたしはだれだ?』に決定した。こうして、2018年10月に20分程度の第1作が完成し、その後順調に半年ごとに第2作、第3作が発表され、そのシリーズの宣伝用の動画も数本公開した。更に、2020年の3月にはローザンヌ大学に赴いて、映画の撮影をするところまで決定していた。しかしながら2020年2月頃からヨーロッパにおいて、新型コロナウイルス感染が急拡大し、計画の変更を余儀なくされた。本計画は、事前準備は一部遠隔会議などでも可能なものの、基本的には数十名の人と一緒に会って撮影や編集を行い、作品を完成させるものである。対面での作業がどうしても必要となり、また現在ほど遠隔会議の技術が進んでいなかった為、ウイルス感染拡大当初は八方塞がりの状態に陥ってしまった。結局、ローザンヌ大学のサイトに、共同で作成したフランス語の脚本『ローザンヌの黒猫』を掲載し、それを学習成果として発表するにとどまらなければならなかった。

計画の全てを実行できなかったことは非常に残念だが、学生のコミュニケーション力は飛躍的に向上し、大きな成果があったと言える。まず、外国語の学習が、単なる語学の修得やコミュニケーション能力の向上だけに留まらず、協働や主体性を身につけさせる上で非常に有効な手段であることが明らかになった。また、複数の外国語を学習することで、外国語同士の関係や日本語との関係性に気付くきっかけとなり、理解を深めるうえで相乗効果があることが分かった。

最後に、スイスなどの外国の大学と共同でプロジェクトを進めることで、学習者が実際に外国人学生と積極的に議論するという貴重な機会を得て、彼らの異文化理解に繋がった。

また、外国語教育研究に関しては、複数の学会・研究会（関西フランス語教育研究会、映像メディア英語教育学会、日本フランス語教育学会、日本フランス語フランス文学会東北支部大会、フランス語教授法研究会など）において発表し、貴重な意見を頂いた。またその後に論文として発表することによって、創造・発信型の外国語教授法を新たに提示することができた。また、これまでの研究の成果を活かした教科書『政宗伝 RPG で学ぶフランス語』（深井陽介，惟村宣明，中條健志，ティノ・ブリュノ著，三修社，2020，ISBN 978-4-384-22056-8）を出版し、学習者が自ら主体的に学習し、外国語を習得するシステムを構築することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 深井陽介、西山教行、小松祐子、茂木良治、今中舞衣子、ベルトラン・ソゼド	4. 巻 13
2. 論文標題 フランス語教育の今、これから	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nord-Est	6. 最初と最後の頁 p1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yosuke FUKAI	4. 巻 10
2. 論文標題 Apprendre le français à travers la création de vidéos sur YouTube - Mise en place de nouvelles approches didactiques et formations intégrant le numérique	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Dossier Acta Litt&Arts : La traduction du savoir et ses méthodes	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 FUKAI Yosuke, KITAMURA Taichi, SAUZEDDE Bertrand	4. 巻 33
2. 論文標題 Création de courts-métrages collaboratifs avec les étudiants	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Rencontre	6. 最初と最後の頁 17 - 21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 1件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 深井陽介
2. 発表標題 「学習支援者(médiateur)としてのフランス語教師の役割」
3. 学会等名 日本フランス語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 深井陽介、ベルトラン・ソゼド
2. 発表標題 「主体性・コミュニケーションを育む：東北大学映画プロジェクトの試み」
3. 学会等名 ATEM映像メディア英語教育学会東日本支部東北特別大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FUKAI Yosuke, SPRING Ryan, LOVE Matthew
2. 発表標題 Using student-generated digital media products for Foreign Language Learning : How, why, and the practical benefits
3. 学会等名 第25回映像メディア英語教育学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 深井陽介・西山教行・小松祐子・茂木良治・今中舞衣子・ベルトラン ソゼド
2. 発表標題 「フランス語教育の今、これから」
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会東北支部大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 深井陽介・惟村宣明・中條健志・ティノ・ブリュノ
2. 発表標題 「フランス語教育とゲーミフィケーションの可能性」
3. 学会等名 フランス語教授法研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 深井陽介
2. 発表標題 「大学で何を学ぶか？」
3. 学会等名 岩手県立不来方高等学校・聖ウルスラ学院高等学校高大連携授業（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深井陽介, 惟村宣明
2. 発表標題 「RPG型教科書の可能性」
3. 学会等名 関西フランス語教育研究会例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深井陽介、ライアン・スプリング
2. 発表標題 「外国語教育における映画製作の可能性」
3. 学会等名 映像メディア英語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深井陽介、ベルトラン・ソゼド、北村太一
2. 発表標題 「YouTubeにおける映画製作の可能性」
3. 学会等名 RPK（関西フランス語教授法研究会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 惟村宣明・深井陽介・中條健志・ティノブリュノ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 120
3. 書名 『政宗伝ーRPGで学ぶフランス語』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

PRISE : Suisse Japon https://wp.unil.ch/projetprise/

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------